

職員の皆さんへ

いよいよ年の瀬の12月を迎えました。

来週から始まる定例会議の審議や来年度予算編成、さらに第二次平戸市総合計画の策定など、大変慌しく多忙を極めることとなります。いつもながら、振り返ればあっという間の一年でしたが、先月は極めて残念な事に職員の不幸事による懲戒処分、そして幹部職員のご逝去など、大変心が締め付けられる事柄がありました。

特に病氣療養により休職していた久家啓史さんのこの度のご不幸は、職場復帰を待ち望んでいただけにとっても残念なことでした。

改めて皆さんと一緒にご冥福をお祈りしたいと思います。

さて週明けの定例会議では新たに就任された大久保堅太議長、山田能新副議長のもと、新人議員4名を加えての議論が始まることとなります。議案の中身については、これまで活用していた公共施設の廃止統合や新たに開設する拠点施設など、文字通りスクラップアンドビルドの重要な内容が多くあります。新しく建設したりリニューアルされる施設は、それなりの使命を帯びながら市民の皆様にも歓迎されるケースが多い傾向にありますが、廃止統合を余儀なくされる場合、それらが担ってきた利便性が減退することによる住民の皆様の不満や不安などが寄せられますので、その変化についてはしっかりと現場の声に耳を傾け誠意を持って対応していきたいと思っております。

ところで、今回予定されている一般質問の項目に「自治体の二元代表制」についてのお尋ねがあります。行政と議会の相関関係について質されることとなりますが、これまで両者を車の車輪に例えるケースが多く見受けられました。実際に私も先月の市長訓示において、この例えを引用し「それぞれの車輪が逆方向に回転すれば同じところをクルクル回るだけで前に進みません。そして、両輪をつなぐシャフトが『相互信頼』というしっかりした構造でなければならぬし、一定の距離を保って切磋琢磨するという『間合い感覚』も重要ではないでしょうか」と表現しました。

私は、さらにこれに付け加えたいことがあります。それはそれぞれの機関が持つ「本質的な機能」と「拠って立つ基盤」の違いです。

まず「本質的な機能」と記したのは、簡単に言えば法に基づく役割の違いであり、行政は法令に基づき予算を伴う執行権があるということです。一方議会は、これをチェックし監督する権能があり、その一方で施策決定過程において提案する立場にあるということではないでしょうか。

つまり、執行部としての行政は、その施策遂行に対して権限と責任を有しているということであり、議会はこれを見守るという立場にあります。時折、議会からは将来予測や失敗した後の責任論などが「想定問答」のように指摘されることがありますが、私が言いたいことは、「やってみなければ判らないことは

行政が全責任をもってやればよい」に対して「議会は応援団として信頼して見守って欲しい」ということです。

もう一つの「拠って立つ基盤」については、行政は当然のことながら法令に基づく執行機関であることに疑問の余地はありません。一方、議員は政治家であり選挙で選ばれることから、「住民感情と政治家個々人の経験値」が基盤となります。多様な価値観と様々な考え方がある中、住民の皆さんの合意形成を促すことは大変難しく、そこに法令などの無味乾燥な、あるいは四角四面なルールを押し付けたとしても上手くいくとは限りません。様々な意見や気持ちに耳を傾け、その中で描くことのできる最大公約数を導き出すことが政治の舞台に多く求められます。そこにこそ「政治的センスが問われる」という言葉が存在する所以ではないでしょうか。

結論として、行政と議会は「車の両輪」の関係である場合に加え、「運転手とドライブレコーダー」の関係でもあり、「エンジンなど動力部門と各種センサーなど電子制御部門」であるのかもしれませんが。いずれにしても「市民の幸福実現」という同じ方向に向かって進む運命共同体であると言えますので、そのことをしっかりと胸に刻みながら、議会での質問には誠意をもって受け止めの確に対応していきたいと思えます。

さて、冒頭に申し上げたように、今回の職員の不祥事は「飲酒運転」でした。このことは絶対にあってはならない法律違反であることは勿論のこと紛れもなく犯罪行為であり、市民への重大な背信行為にほかなりません。

以前に起きた同種の事件を教訓として、引き続き全職員が一丸となって再発防止に取り組んでいた時だけに返す返すも残念でなりません。

今後において万が一にもこのような事案が発生した場合は、最も重い処分となることを改めて認識いただきたいと思います。

年末年始になれば、職場内にとどまらず家族や友人・親戚などとの酒宴も多くなることでしょう。そうした場面に向き合う場合は、帰宅する手段をあらかじめ決めておくことが大事です。酔った状況での判断は自分に甘くなります。そして仲間内でも厳しくそのことを指摘し合うことが真の信頼関係ではないでしょうか。

さて、気候の面でも寒さが一段と厳しくなりますので、くれぐれも健康や体調に留意し、「火の用心」なども含め、自己管理についても万全な配慮を行いながら家族のために、地域のために、後顧の憂いなく堂々と職務の遂行にあたられますよう職員皆様のご努力に期待します。

平成 29 年 12 月 1 日

平戸市長 黒田成彦